

○今年も厳しい電力事情

経済産業省「エネルギー白書2011」によると、日本の電力使用に占める家庭の電力消費分は、全体の約3割を占めています。

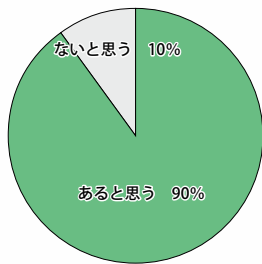
また、5月5日に北海道電力泊原子力発電所3号機が稼働停止したことにより、国内にある原子力発電所すべてが停止しました。

昨年の夏期には、15基以上の原子力発電が稼働していたことを考えると、今年の節電の実施は昨年以上に重要なものになると考えられます。

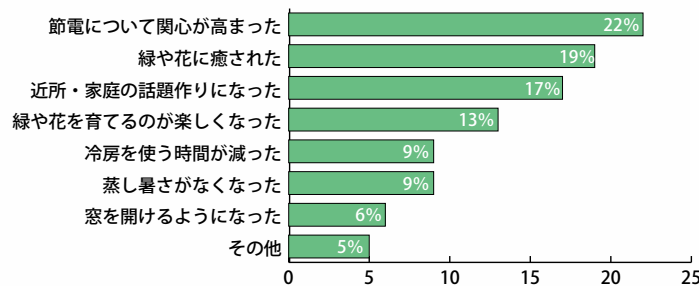
○平成23年度「都留市グリーンカーテンプロジェクト」アンケート結果

昨年に発生した東日本大震災による原子力発電所の稼働停止に伴う電力不足への対策の一つとして、市では市内でゴーヤを栽培し、グリーンカーテンに取り組みました。また、エアコンの温度設定の徹底や、照明使用電力量の削減、「元氣くん」による自家発電などの取り組みにより、平成23年6月～9月の電力使用量は、平成22年の同時期に比べ、43・7%の削減となりました。さらに、市民活動支援センターにおいては、都留市内でゴーヤのグリーンカーテンの取組に協力していただけ的一般家庭を募集し、「グリーンカーテンプロジェクト」を実施しました。実施後にアンケートを行い、感想や効果、問題点を調査したところ、その結果は次のとおりです。

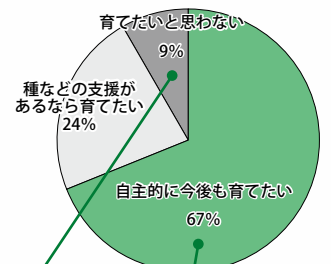
■「グリーンカーテンは節電に効果があると思いますか？」



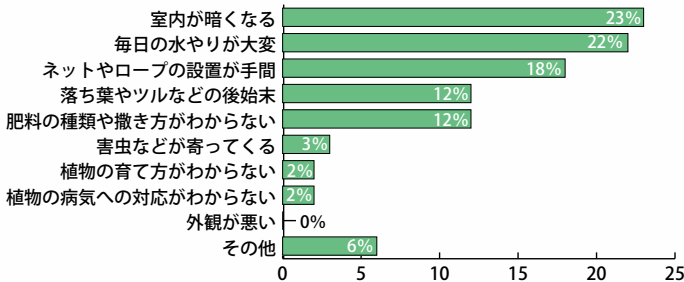
■「グリーンカーテンは、どんな効果がありましたか？」



■「今後もグリーンカーテンを育てたいですか？」



■「グリーンカーテンの問題は何ですか？」



◇「育てたいと思わない」人の理由

- ・日中家にいないため、省エネ効果が少ない
- ・においがするのと、部屋が暗くなるから

◇「自主的に今後も育てたい」人の理由

- ・涼の心地よさと夏バテ防止のゴーヤ料理を食べられる
- ・庭先で花の研究もでき、子どもにも教えることができる
- ・エコに役立ち、育てる楽しさがある
- ・西日を遮るのに効果的だった

※アンケートについて

〈対象〉都留市グリーンカーテンプロジェクト実施家庭(126家庭 うち回答91家庭)

〈実施期間〉平成23年5月29日～10月17日

「グリーンカーテン」で涼しい夏を！

○グリーンカーテン・問題解決のポイント

グリーンカーテンの代表的な植物は、「ゴーヤ」ですが、こうした葉が大きくなる植物は遮光効果が高くなり、部屋の中に光が届きにくくなります。今回のアンケートでも、「グリーンカーテンの問題は何ですか？」との質問への回答では、「室内が暗くなる」と感じた方が23%で、一番多くになりました。このような場合、育てる植物の種類を変えることで問題が解消します。例えば、「フウセンカズラ」といった、葉が小さい植物をカーテンにすることにより、部屋の中に光が入ってきやすくなります。

また、水やりの負担については、現在、貯水機能を持つプランターが販売されているため、毎日の手入れが大変という方は、こうした便利グッズをうまく活用することにより、負担を軽減することができます。

このほか、ネットやロープの設置についても、格子付きのプランターを用いることで、設置の手間は省けてしまいます。

○できることから

総務省消防庁の発表によれば、昨年の夏期の熱中症による救急搬送者数は、山梨県内で255人、全国では39,489人にも上りました。今年も暑さが厳しい夏となることに備え、一人ひとりが工夫を行ない、無理のない節電に取り組みましょう。